

観音寺

〔同所来迎院の北にあり。本尊十一面観音は弘法大師の作、立像二尺許。脇土左不動明王、智証大師の作。〕

右毘沙門天、運慶の作。当寺草創の本願は山本左大臣なり、花山法皇興行し給へる西国巡礼の札所観音の其一員にして、世人新熊野観音と称す〕

善能寺

〔同所観音の乾二町にあり。本尊聖観音、稲荷大明神老翁に化して作る所なり、立像三尺三寸。脇土左稲荷〕

大明神、稲を荷ふ老翁の御形、弘法大師の作なり。右弘法大師、立像二尺許、稲荷大明神の作なり。伝云、此本尊は初め八条二階堂に安置する所なり。前編に見へたり〕

戒光寺

〔泉涌寺総門の内にあり。本尊釈迦仏、立像一丈六尺。伝云、頭面は自然の出現なり。開山曇照和尚宋国よ〕

り持来して、其余は運慶作るなりとぞ。当寺初めは猪隈八条にあり、今戒光寺町といふ。其後上京所々にうつり、正保年中今の地に移して泉涌寺に属す〕

新善光寺

〔戒光寺の南にあり。本尊阿弥陀仏、一光三尊、信州善光寺に同じ。後嵯峨帝名一坊に勅して鑄さしめ給〕

ふ紫金仏なり。初めは洛陽大宮通一条の北にあり、後世こゝにうつす〕

悲田院

〔親善光寺の南にあり。本尊阿弥陀仏、立像二尺五寸許。当院は聖徳太子の草創なり。元正常養老八年に、鰥寡孤独の輩及び病者を救はんため、施薬院悲田院をいとなみ給ふ。是に准じて後世堯然上人再興し、又如周律師中興してこゝに遷す〕（已上八ヶ寺みな泉涌寺の塔頭なり）

常盤宅地

〔泉涌寺落橋の北、半町許にあり。義朝亡びて後常盤御前漂泊しける時、遂に其美艷を賞して平相国入道が妾となれり、かの六波羅の館近がゆへに此所に住しめ置しならん、其地今藪となす〕

落橋

〔大和大路のひがし泉涌寺路にあり、一名夢浮橋といふ、幻化無常の義なり。源氏物語に、出世に大路橋といふは非なり。落橋薩戒記に出たり〕

瀧尾社

〔大和大路一橋南爪にあり。祭神藤社の属社なり、額、瀧尾社、篆字。例祭六月廿一日〕

五葉辻

〔瀧尾社の南の辻をいふ、是則いにしへの泉涌寺門前なり。後中記云、仁明三年正月廿五日、今夜四条院御葬礼、経五葉辻入御泉涌寺云々〕

三聖寺

〔東福寺北門の内左にあり。第一門に金剛力士の像を安ず、長八尺許、運慶うんけいの作。此像靈驗の事大友興廢記に載す、初めは筑紫にありしなり。此門の中央に石あり、元とは獅子の形なり、乱世に破碎す。今尚石に獅子毛の紋あり。牛を畜ものこ、にひき来り此石に触る、時は、病難横災を除くなりとぞ〕

仏殿の額、修正。本尊、釈迦仏。左、迦葉かせう、阿難あなん、開山宝覺師像。

愛染堂あいぜんだう 〔同所の西、街道の東側にあり。本尊は康慶かうけいの作なり。同所に五大尊を安置す。当寺は東福寺より初めの建立にして、天台宗なり〕

万寿寺

〔三聖寺の内に入り、九重山と号す。初めは樋口ひぐち通万里小路にあり、永亨六年回祿の後此地にうつす、五山の一員なり。開祖覺空禪師〕

俊成卿墓

〔東福寺塔頭南明院なんめいにあり。又浄如尼墓あり、これは俊成卿しゆんせいきやうの御母となん〕

自然居士塚

〔東福寺東南の山にあり。或書に曰、自然居士は和泉国日振郡自然田村の産なり、故に名とす。始は法相を学び、後禪宗となつて南禪寺大明国師の弟子となる、聖しやう一いつ国師こくしの為には孫弟なり。東山雲居寺うんこに居して群生を聚め説経し、又歌舞をなして其染心を断。東福寺の瀧吟庵は大明国師の本菴なり。此ひがしの谷に自然居士も暫く棲給

ひしとぞ」

西寺古鐘さいじのこしやう

〔東福寺にあり。西寺は守敏僧都の寺なり〕

海蔵院かいざうあん

〔東福寺塔頭なり。二老橋の北にあり、虎関師こくわんの住し所なり。磧礫集云、海蔵院には虎関自筆こくわんの元亨積書あり

り